

北東北知事サミットゲスト経歴一覧

あさむら たかし

① 浅村 峻 (新日本製鐵株式会社代表取締役副社長)

昭和11年福岡県生まれ。昭和34年九州大学工学部機械工学科卒、八幡製鐵(株)入社(昭和45年から新日本製鐵(株))。平成9年から現職。

【新日本製鐵株式会社の環境保全に向けた取組み】

- ・ 新日本製鐵株式会社は、省エネルギーの推進、省資源・資源の有効利用に取り組むとともに、国際的視野に立った環境保全、豊かな環境づくりなどの環境保全活動を全社をあげて推進している。
- ・ 工程の連続化や省略、廃熱回収の導入により、世界で最もエネルギー効率のよい鉄鋼一貫製鉄メーカーの1つとなっている。
- ・ 昨年、光製鉄所(山口県)において、溶けた鋼から直接熱延鋼板が製造できる画期的な製鉄技術を、世界で初めて実用化。
- ・ 次世代コークス炉(20%の省エネルギー可能)や高炉法に代わる熔融還元法(6%の省エネルギー可能)の開発を進めている。
- ・ 鉄鋼プロセスで発生するスラグなどの副産物の資源化率が95%に達している。
- ・ 各製鉄所で、その土地本来の樹木で構成する森づくりを進め、全社で700万㎡の美しい森が誕生した。この取組みは国際エコロジー学会に報告され、国際的な反響を呼んだ。

かわかつ へいた

② 川勝 平太 (国際日本文化研究センター教授)

昭和23年京都府生まれ。早稲田大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(オックスフォード大学)。平成2年早稲田大学教授。平成10年から現職
アジア・太平洋賞特別賞受賞(平成8年)。読売論壇賞受賞(平成10年)。

- ・ 比較経済史が専門。日本の鎖国と欧州の産業革命を「アジア経済圏からの自立」という視点から同列においた鎖国論を展開。
- ・ 国土審議会の専門委員として「新しい全国総合開発計画」策定の中心的メンバーとして活躍。
- ・ 「日本は美しい都市と農村を回復せよ」と主張。今年3月に策定された新全国総合開発計画における美しい国土のイメージ「庭園の島」(ガーデン・アイランド)は、氏が提唱。
- ・ 「文明の海洋史観」(中公叢書)、「富国有徳論」(紀伊国屋書店)、「日本文明と近代西洋」(NHKブックス)など著書多数。

③ 瀬戸 雄三 (アサヒビール株式会社代表取締役社長)

昭和5年兵庫県生まれ。昭和28年慶応義塾大学法学部卒、アサヒビール入社。平成2年代表取締役副社長。平成4年から現職。

【アサヒビール株式会社の環境保全に向けた取り組み】

- ・ アサヒビール株式会社は、「環境保全基本理念」のもと、いち早く「廃棄物ゼロ工場」の実現に取り組むなど、その先駆的な活動は、環境保全に取り組む全国の企業の目標とされている。
- ・ 平成8年に茨城工場（茨城県守谷町）が「廃棄物ゼロ」を達成。その後平成9年に福島工場、東京工場が達成し、今年中には全9工場ならびにグループのアサヒ飲料全3工場で、達成する予定である。
- ・ 平成9年に吹田工場（大阪府）で、発電後の廃熱を再びエネルギーとして活用するコージェネレーションシステムを導入し、その廃熱エネルギーをフロンを使用しないアンモニア吸収式冷凍機の駆動源に利用している。
- ・ 今年中に、名古屋工場で、工場内のあらゆる設備で、一切のフロンを使用しない「ノンフロン」を達成する予定である。

④ 富山 和子 (評論家)

群馬県生まれ。早稲田大学文学部卒。立正大学教授。日本福祉大学客員教授。

- ・ 水問題を森林・林業の問題にまで深め、今日の水、緑ブームの先駆となる。また「水田はダム」との重大な指摘を行ったことでも知られる。農林漁業が環境に果たす役割を理論化。昨年はハーバード大学に招かれて「水と日本文化」と題し講演、反響を呼ぶ。
- ・ 平成元年から「富山和子がつくる日本の米カレンダー、水田は文化と環境を守る」を主宰。
- ・ 著書「水と緑と土」は環境問題のバイブルといわれるロングセラー。「川は生きている」（産経児童出版文化賞）「森は生きている」「お米は生きている」（産経児童出版文化賞大賞）などの児童書も小・中学国語の教科書に掲載され、大学入試にも出題されるなど、教育、行政の現場で広く活用されている。
- ・ 自然環境保全審議会委員、林政審議会委員、環境庁「名水百選」選定委員、食料・農業・農村基本問題調査会委員など、公職多数。

⑤ 西澤 潤一 (岩手県立大学長)

大正15年宮城県生まれ。東北帝国大学工学部卒、東北大学大学院特別研究生期間満了。工学博士。同大教授を経て、平成2年同大総長。平成8年退任。平成10年から現職。

ジャック・A・モートン賞受賞(昭和58年)。文化功労者(昭和58年)。文化勲章受章(平成元年)など受賞多数。

- ・ 静電誘導トランジスタをはじめ、光通信の基本三要素(光ダイオード、半導体レーザー、屈折率不均一のガラスファイバー)の発明・開発で知られ、“ミスター半導体”“光通信のパイオニア”とも称される。
- ・ 知識偏重の日本の教育の行く末に強い危機感を抱き、人間形成重視、創造的能力の育成を説く。現在学長を務める岩手県立大学では、平成10年度から一部の学部の入試についてはセンター試験を採用せず、自由で豊かな思考力を試す試験を取り入れることとしている。
- ・ 同大では、人間を尊重し、学問分野にとらわれない教養教育に力を入れ、また地域・環境問題など複雑多様化する現代社会に的確に対応できる「問題発見・問題解決志向型」の人材の育成を目指している。
- ・ (財)半導体研究振興会半導体研究所所長、東北大学名誉教授、日本学士院会員、郵政省電気通信技術審議会会長

⑥ 矢口 高雄 (漫画家、エッセイスト)

昭和14年秋田県生まれ。昭和33年増田高校卒、羽後銀行入行。昭和45年退職、漫画家としてデビュー(「鮎」少年サンデー)。昭和48年「釣りキチ三平」連載開始。平成7年郷里の秋田県増田町に氏の漫画家生活25周年を記念して“まんが美術館”が開館。

講談社出版文化賞(児童まんが部門)受賞(昭和49年)。日本漫画家協会賞グランプリ受賞(昭和51年)。

- ・ 「釣りキチ三平」で全国に釣りブームを巻き起こす。
- ・ そのほか「マタギ列伝」、「ニッポン博物誌」など数々の作品を発表しているが、作品の舞台は一貫して東北・秋田にこだわり、自然と人間の関わりを描いたものが多い。
- ・ エッセイストとしても活躍。「ボクの学校は山と川」、「ボクの先生は山と川」の2つのエッセイ集がある。中の一文が中学校1年国語教科書に掲載されているほか、数編が小・中学校の道徳教育副読本に掲載されている。
- ・ 日本漫画家協会(参与)、日本自然保護協会(評議員)